

編集後記

帝京科学大学紀要第19巻をお届けします。

コロナウイルスの感染が収束傾向となり、マスクの着用も個人の判断に委ねられるようになりました。しかしながら、多くの会議が引き続き遠隔会議で行われています。コロナ禍においては仕方なく遠隔会議であったものが、最近では遠隔会議の良さに注目して継続するというケースも多いようです。紀要編集委員会も例にもれません。今年度も各委員が都合の良い場所から参加していただき遠隔で執り行いました。

編集委員と査読を担当してくださった方々のご協力により、第19巻には、原著論文5編、研究ノート9編、研究・教育・社会活動の報告、事業報告、エッセイ等10編を含む合計24編の論文・報告等が掲載されています。

2019年12月に初めてコロナウイルスが報告されましたので、第16巻(2020年3月発行)にはコロナ禍はまだ影響していないとして、16巻までの4年間の平均論文数を数えると38編/巻となります。これを第17巻以降の3年間の平均24編/巻と比べると明らかな違いがあります。これを単純にコロナの影響とみるのは危険ですが、今後、教育・研究活動の活発化とともに紀要への投稿論文数も増えていくのではないかと期待したいところです。研究活動が論文の形で現れてくるまでにはタイムラグがありますから、次の巻というよりは2～3年かかって以前の状況に戻るのではないのでしょうか。

姉妹誌である教職センター紀要「教育・教職研究」、総合教育センター紀要「総合学術研究」、地域連携推進センター年報「地域連携研究」も巻号を重ねてきました。これらの学術誌との連携を図りながら、本学の教育・研究のアクティビティを社会に還元する手段の一つとして、帝京科学大学紀要を充実させていきたいと考えています。

特段の断りがない限り査読委員の氏名も掲載しその労に報いることとしています。多くの時間を費やして紀要編集に協力いただいた編集委員の先生方、査読していただいた全ての先生方、事務局の方々に御礼申し上げます。

令和5年3月

編集委員長 永沼 充

編集委員

松岡 浩、橋本慎治、近藤保彦、菅沼一男、鈴木幹夫、渡邊利明、宮下 智、行田直人、大釜信政、一色 哲、望月崇博、渡部晃子、大日向 浩、石田良仁、齊藤百合花、永沼 充

査読者（氏名掲載を承諾いただいた方）

荒川知子、安藤生大、石田良仁、糸井和佳、岩瀬礼子、植木岳雪、牛越秀人、江口英範、尾野明美、金子千香、金田 拓、行田直人、倉山智春、櫻井 丈、佐藤光浩、眞保 実、鈴木幹夫、清野純子、塚田絵里子、内藤隆宏、東 克己、前嶋深雪、松影香子、宮城純子、安田耕平、山際清史、山本真理子、吉岡幸子

(五十音順・敬称略)

表紙デザイン 井腰みゆき

帝京科学大学紀要 第19巻

発行日 令和5年3月31日

発行 帝京科学大学

〒120-0045 東京都足立区千住桜木二丁目2番1号

TEL 03-6910-1010 (代) URL <http://www.ntu.ac.jp>

編集 帝京科学大学紀要編集委員会

印刷 株式会社 外為印刷